

# 予防医学事業中央会 技術運営会議が開催

予防医学事業中央会の平成16年度第1回技術運営会議が8月26日、27日の2日間にわたって、東京・市谷のグランドヒル市ヶ谷で開かれた(写真)。技術運営会議は、各支部の検査技術担当者を集めて情報交換し、健診事業における検査技術の質を高める目的で開かれていた。今回の会議では、事例報告と協議「健診検査の安全管理対策」のほか、同時開催されていた生化学検査研修会との合同で、河合忠自治医科大学名誉教授による講演や意見交換会などが行われ、予防医学事業中央会傘下の33支部から検査技術担当者ら約50人が参加した。

## 健診検査の安全管理対策、 臨床検査の標準化をめぐる

### 会議の冒頭、あいさつに立つ中央会技術委員長の河合名誉教授は、次のように述べた。

「これからの健診事業は、正確な健診・検査結果の提供が大前提となるだけでなく、顧客に対するよりよいサービスの提供が求められる。その意味でこの会議は非常に重要である。活発な情報交換を行い、新しい知見を持ち帰って、今後の業務に役立ててほしい。」

また、中央会全国運動報告では、山内邦昭中央会常務理事が、厚生労働省の動向や中央会での現状を紹介し、情勢の変化に対応した積極的な活動展開を呼びかけた。

河合名誉教授による講演「臨床検査の標準化」は、「共通基準値設定の試み」と「ISO15189に基づく認定制度の現状」の2つのテーマで行なわれた。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。



河合名誉教授による講演「臨床検査の標準化」の様子。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

## 『神経芽細胞腫マスキニングの効果評価と医療体制の確立』で厚労省研究班がスタート

神経芽細胞腫は、子どものうち白血病、脳腫瘍に次いで多いがんである。このがんを発症すると、尿中に特定の物質(VMA、HVA)が増えることや、神経芽細胞腫には予後の良いタイプのものや悪性の強いタイプのものがあり、前者は1歳以下の乳幼児に多いことなどから、生後6カ月の乳幼児を対象に、1980年ごろから神経芽細胞腫のマスキニングが行なわれてきた。

本会でも、専門医の協力のもとに、1984年から都内の乳幼児を対象に、精度の高い液体クロマトグラフ(HPLC)によるマスキニングを実施してきた。

明らかにされるまで、神経芽細胞腫マスキニングは平成16年度から一時休止されることになった。

今回立ち上がった厚生労働省研究班(登録症例から見た神経芽細胞腫マスキニングの効果評価と医療体制の確立)主任研究者・檜山英三(広島大学自然科学研究支援開発センター教授)は、20年間にわたって他に類を見ない大規模なスケールで行なわれてきた日本の神経芽細胞腫マスキニングの成果を科学的に解析し、その効果評価を行なうことにも、マスキニングの実施時期の変更も含めた神経芽細胞腫の新しい診断法を確立することを目的としている。

同研究班は、さる7月29日に千代田区の砂防会館で第1回の班会議を開いて、今後の研究方針や本年度の研究計画を話し合った。

なお、この研究班には、予防医学事業中央会の支部である静岡県予防医学協会と新潟県保健衛生センターが班員として参加している。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

河合名誉教授は、中央会に集積した石川県予防医学協会が検査部門における認証取得までの取り組みを紹介した。

## 第22回 全国情報統計 研修会が開かれる

本会など予防医学事業中央会傘下の全国支部で情報処理や統計業務に携わっている担当者約80名が参加して、第22回全国情報統計研修会が9月2日、3日の2日間、熊本市で開かれた。

1日目の「話題提供」では、「地域・職域診断サービシステムの使用経験とその評価」と題して田村幸

寿氏(鳥取県保健事業団)が「地域・職域診断サービシステムの活用」を、県内各地域の健康課題の把握と保健事業を効果的に展開している経験を、また、「3支部(栃木・鳥取・島根)共同開発による健康診断データ処理システムについて」と題して大房一成氏(栃木県保健衛生事業団)が、経費節減や納期短縮、質

向上に向けた取り組みを報告した。

次いで、コンピュータシステムの稼働状況についての情報交換、職域保健の成績処理、地域保健の成績処理、学校保健の成績処理、施設診断の成績処理の5部門でグループ討議が行なわれ、実務担当者による発表や活発な意見交換がなされた。

2日目のパネルディスカッション「健診機関における個人情報保護法への対応」では、個人情報保護法への対応、インフォセックの岩永摩美氏(欧米における個人情報保護制度の概要やOECD8原則と個人情報法の対応について講演し、「今後は健診機関でも、個人情報保護の第3者認証制度『プライバシーマーク』の取得や、スタッフの日常業務の意識改革などが求められる」と述べた。

その後、川島英敏氏(日赤熊本健康センター)、青木芳和氏(神奈川県予防医学協会)、水谷良一氏(本会)が、各支部における個人情報保護の取り組みの現状や今後の方向性を報告した。

当日会場受付で参加費2000円を支払えばとなたでも入場できます。定員先着400名。

会場は「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」国会議事堂前、「溜池山王」赤坂見附駅下車、徒歩10分以内の場所。

お問い合わせ  
今求められる健康教育 4  
生き方をサポートする

第198回ヘルスケア研修会  
11月24日(水)午後2時~4時  
東京・永田町「星陵会館」

第198回ヘルスケア研修会が11月24日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開かれる。



## 学童検診業務の必携システム!

### ECP-4641

医療器具承認番号:20800BZ00230000

- 学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
  - 心電・心音図検査を60人以上/時間のスピードで処理
  - 不整脈自動延長機能を搭載(学校保健法施行規則に対応)
  - 内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
  - 成人病検診にも活用可能
- ※解析プログラムは学校心臓検診二次検診対象者抽出ガイドラインに対応  
※検診業務に対応する専用パネル採用

フクダ電子ホームページ  
http://www.fukuda.co.jp

お客様窓口  
TEL (03) 5802-6600

●医用電子機器の総合メーカー

**フクダ電子株式会社**

本社 東京都文京区本郷 3-39-4 TEL (03) 3815-2121(代) F113-8483

医療と健康をつなぐ  
テクノロジー